まちあるきカードによる都市形成史の見える化

ー博多港歴史ガイドブックー

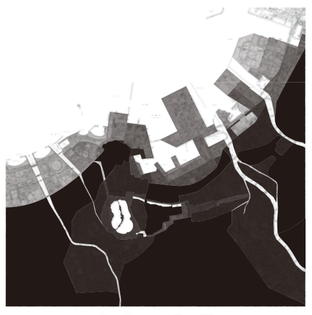
都市デザイン研究室　　主査：前田英寿
Cy12042　福島　望　　副査：篠崎道彦

1　研究の背景と目的

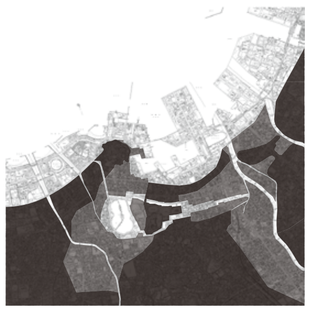
九州の拠点、かつてアジア大陸との交流の場であり、元寇や福岡城築城など歴史の舞台になった博多港。現在は水と緑、港と街が共存する臨海都市である。今回、黒田家が築城した福岡城や、豊臣秀吉が行った太閤町割をはじめとする多くの史跡が、今現在まで人々の生活に馴染んでいる福岡・博多のまちに興味を持った。ここから、福岡・博多のまちがどのように時代を経て、現在の都市が形成されていったのかを辿り始めた。

調査を重ねていくうちに、福岡・博多周辺は深く入り込んだ入江が２つ存在していて、かつての海岸線が現在では考えられないような場所にあったことが分かった。調査の参考としたのは、文献、古地図や絵図、和歌や石碑、地名や道筋、土地の標高である。元来の地形から積み重なる海岸線だった場所には、名残が感じられるようなヒントが数多く存在していたことから、今回の研究につながる。

現在、博多港と呼ばれている福岡・博多の海岸線の変遷に着目して、博多港都市形成のヒントとなった場所をまちあるきカード及びガイドブックとしてまとめ、都市形成史の見える化を


都市形成変遷地図

- 1274 年


- 1800 年

-1926 年

- 1936 年

- 1960 年

2　研究の構成と目的

１）　前半（調査編）

福岡県博多港都市形成による海岸線の変遷を調査

かつての海岸線がどの位置にあったのかを、文献、古地図や絵図、和歌や石碑、地名や道筋、土地の標高を参考にし、都市形成の変遷を辿った。住吉神社所蔵の博多古図に描かれている地形を 1274 年として、1800 年、1926 年、1936 年、1960 年、1966 年、1972 年、1990 年、2015 年と、海岸線の変化が著しかった年代ごとに海岸線を反映させ、博多港都市形成の変遷地図を作成した。

研究の対象となる 1274 年、1800 年、1926 年、1936 年、1960 年を中心に、参考とした古地図や絵図、海岸線の手掛かりとなった箇所を変遷地図とともに紹介する。

２）　後半（制作編）

- 都市形成に関する地点によるまちあるきガイドブックとまちあるきカードを制作

元来の地形が積み重なる場所を、文献、古地図や絵図、和歌や石碑、地名や道筋、土地の標高をもとに抜粋し、実際に調査する。結果として名残が感じられる場所は、寺院、神社、石垣などが多くを占めていた。

元来の地形から積み重なる海岸線の名残が感じられる場所を
「都市形成サイト」
都市形成サイトの中でも海岸線のヒントが複数存在しており、それぞれピックアップした場所を
「都市形成スポット」

と呼ぶこととする。

まちあるきガイドブックには海岸線の名残の所以だけでなく、都市形成に関する地点の情報

3　カードの企画・制作

ガイドブックで紹介した都市形成サイトから海岸線の手掛かりとなった都市形成スポットを抜粋して、はがきサイズのカードとして作成する。ガイドブックからカードには都市形成の由来のみに限定した内容を簡潔に説明する。カードの表面には名称、地点、住所、アクセス方法、要約、説明を載せる。裏面には古地図と現代地図の比較を載せ、関連している地点も紹介する。

カードにすることによって、まちあるきのルートを自分好みにカスタマイズすることが出来ると考えた。こちらからまちあるきのお奨めルートを提案する、カードを手にした人が気になった地点を寄せ集めルートを計画する、年代順に並べ変える、神社や石垣などテーマごとに並べ変える、、、このように組み合わせを変えることで様々なニーズや目的に合わせることが可能になる。

また、現地でその場所のカードを手に持つだけで情報を確認できるので、折り畳み式のパン

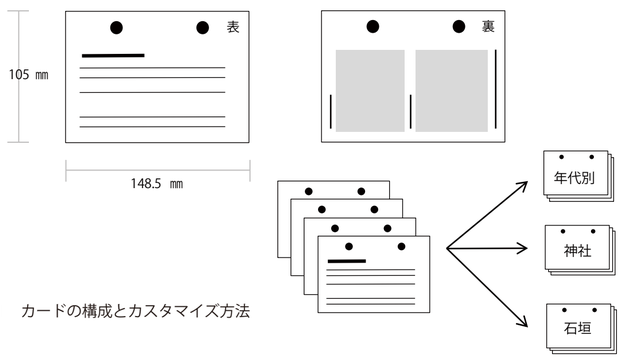


図１　カードの構成とカスタマイズ方法

4　都市形成サイトと都市形成スポット

都市形成スポットが都市形成サイトより紹介する数が増えるのは、1 地点に都市形成に関するものが複数存在しているためである。
（例：都市形成サイト内 21 番目の黒門川には都市形成スポット 35 番目の黒門川、36 番目の黒門橋、37 番目の築所跡、38 番目の杉土手、計 4 か所をカードとして抜粋している。）

都市形成スポットを選抜した主な内容は以下の 5 項目で分けられ、各スポットの選抜理由は右の表で記すこととする。

――目で見て海岸線が感じられるもの
――古地図と現在の地図を見比べて海岸線の位置がわかるもの
――地名に海関連の名前が使用されているもの
――案内板に説明書きがあるもの
――実際に道筋に残されているもの

表１　各スポットの選抜理由

都市形成サイト		都市形成スポット			選抜理由
1	住吉神社	1	住吉神社		住吉の語源はすみのえで澄んだ入江のことを指し、海の神が祀られている 深く入り込んだ入江の岬のような場所に日本第一住吉大明神と記載あり。 本殿や拝殿、鳥居が描かれているのが分かる。
		2	天津神社		かつて満潮時にはこの池にも達していて汐入池とも呼ばれた。 伊弉諾大神が禊祓みそぎはらえをした霊池と記載あり。 天竜池と呼ばれ、かつて深く入り込んでいた入江の名残といわれる。
2	櫛田神社	3	霊泉鶴の井戸		地下から今昔変わらず冷泉が湧き出ていていのちの水として信仰されると 塩分濃度が高い。しょっぱいというより鉄っぽい苦み。
3	沖濱稲荷神社	4	沖濱稲荷神社		沖の濱という名称はかつて離れ小島だった地名から由来。 この沖の濱の海岸に空海が船旅の疲れをとるため滞在したと記載あり。
4	綱敷天満宮	5	綱敷天満宮		菅原道真公が船で上陸し休息をとったとある。 漁人が綱で作った敷物で菅原道真公を歓迎したのが由来となる。 袖の湊とかかれる海岸線そばに綱場天神と記載あり。 現在もこの場所には綱場町として名前が残っている。 綱は船団という意味もあり、貿易や船に由来する地名と考えられる。
5	鏡天満宮	6	鏡天満宮		菅原道真公が海路でやつれた顔を鏡で見たのが由来とある。
		7	渡唐口跡		貿易の玄関口として繁栄し、中国大陸との間を行き来する船が接岸した場 冷泉津と袖の湊と掘られ、この辺りは入江があったことを示している。
6	龍宮寺	8	龍宮寺		創建当初は袖の湊の海辺にあり、浮御堂だったとある。 人魚を確認するため訪れた人が宿泊したとされる旅館として記載あり。
		9	人魚塚		漁師の網に約150mの人魚が捕えられる。 冷泉津の東の位置に、人魚ここより上がると伝わる、と記載あり。 幕府の人間が人魚確認の際宿泊したこの場所に人魚を埋葬、塚が残ってい 1812年に人魚の図が描かれ、海に浮かぶ人魚を確認しに集まる人が描かれ 中世に描かれた人魚図には長い体が橋になったという伝説が書かれている 寺内から大きな骨が掘り出され、現在も保管されている。
7	楊ヶ池神社跡	10	楊ヶ池神社跡		かつては袖の湊の入り江だった場所と記載あり。 袖の湊の名残が小さな池として残ったものがこの場所にあった。 小さな池の岸に“やなぎ”の大木があったのが由来とされる。
8	袖の湊	11	袖の湊		保元3 年に平清盛によって築かれた日本初となる人工の港とされる。 貿易港としての役割だけでなく朝廷の公用港としても重視される。 実際の正確な位置はわかっておらず、地図に記載される場所もばらばら。 名前の由来が入江の形状が袖の形から、古歌の言葉からと諸説あり。
9	大水道	12	大水道		袖の湊に砂が堆積して残った博多の町を東西に横断する水路のこと。 様々な水路の道筋が描かれ、実際の正確な道筋はわかっていない。 国土地理院の高低地図では大水道付近が低いことが分かる。 現在は暗渠化され完全に埋まっているが、発掘調査で明らかになりつつあ
		13	大水道の出口		水路が下水溝化した際出口になった部分が実際に残っている。 石堂川から博多の町を東西に横断し、博多川へ流れる出口である。 川端の大水道という名称で、利用されていたころの絵も描かれている。
		14	大水道の石蓋		大水道と呼ばれる運河を下水溝にした際に大水道を覆った石蓋とある。 ため池に架かる平たい1mほどの大きな石。様々な種類の割石が積層してい
10	湊橋	15	湊橋		かつて大水道をまたいでかかっていた橋である。 約150mの距離があった新川端町と川端町をつないでいた。 名前の由来は袖の湊の名残だと福博古図に記載あり。
11	御舟入	16	新御舟入		博多中学校がある場所は新御舟入が描かれている。 古御舟入の砂の体積による機能低下によってこの場所に新御舟入を造った
		17	古御舟入		中州の北端にあたる中島町公園の部分に古御舟入が描かれている。
12	博多小学校石垣	18	博多小学校石垣		元寇防塁の石垣が小学校下に保存されている。 3.5mの砂の上に築かれた石塁が見学可能である。 発掘調査により全長53mの石塁が一直線に伸びていることがわかる。 この付近の旧地形は海岸線沿いの砂丘だったことから推測された。
13	中州	19	中州		現在も福岡と博多に挟まれた小島として形を残している。 当時は中州町と中州畠と2 つの砂丘で形成されており、なにもなかった。 御舟入が出来、福博をつなぐ橋が架けられ双方の玄関口とされる。 名称は土地の成り立ちをそのまま示し地名となっている。
14	鴻臚館	20	鴻臚館		かつての外交の中心地である迎賓館が船の往来に便利な海に近い場所にあ 小高い丘で博多湾岸を一望し出入りが監視できるような便利な立地だった
		21	平和台球場跡		外野スタンドで掘立柱遺構と建物跡が発見された。 発掘調査で判明して土が被され、保存された位置に堀や建物が再現されて 鴻臚館の実際のスケールが体感できる。 発掘調査により館や堀、堀に架かる橋があったことが判明した。
		22	鴻臚館跡展示館		鴻臚館遺跡模型や再現映像、発掘された遺構が保存されている。 一段低い場所に発掘された状態の遺構が保管され、見学可能になっている
15	福岡城３門	23	赤坂門		現在の九州電力の赤坂変電所付近に赤坂門があり、案内板が残されている 発掘調査で福岡城の石垣が江戸時代のままの姿で地表下約0.6mに現れた。 南北長12m、東西長5mが確認されそのまま調査区の外へと続いている。 高さは3mあるが上部が破壊されており本来はもっと高い石垣だったと考え
		24	薬院門		現在の天神西通りに枡形門の曲がったような跡が残っている。
		25	数馬門		現在のアクロス福岡、福岡市役所付近に位置する。 数馬門に通じる橋は東中島橋で、中州を通って博多方面をつないでいる。 東中島橋から枡形門を曲がって堀をまたぐ橋につながる道筋が描かれてい
		26	アクロス福岡石垣		川沿いには枡形門に続いていただろう石垣の一部が天神中央公園にかけて かなり大きな石垣が写っていて、5mほどの高さがあったことがわかる。 川から敵が侵入されないためか壁のような石垣が描かれている。
		27	枡形門		四角で周囲をかこみ２箇所に出入り口の門を設けられているものをいう。 一直線に進めないように門の中で一旦曲がって進む方向に2つの門が設け 外部に面している小さい門は控柱の上に屋根がかかった高麗門と呼ばれる 内側の大きな門は2階建てで2階が櫓、1階が城門の櫓門にすることが一般
16	福岡城石垣	28	福岡城石垣		福岡城の外堀が明治通りの歩道下に保存されている。 かつての外堀の幅を現在の堀の位置から推測することができる。 貴重な横矢掛かり部分の石垣を見学可能。 以前の石垣と作り替えられた石垣の2つを同時にみることが出来る。
17	福岡城堀	29	紺屋町堀		堀の南側にあった町名からきていて、別名中堀とも呼ばれる。 当初は土塁のみで積み上げられ、埋まるのを防ぐため石垣が築かれた。 現在は埋め立てられ道筋に残されている。
		30	大名小石垣		大名小学校の正門付近の塀の土台となっているのが紺屋町堀の石垣 正門に福岡城石垣だということが説明されている。
		31	肥前堀		福岡城築城の際に佐賀藩の援助があったことに由来で別名佐賀堀とも呼ば 石垣を築き九州沖縄八県連合共進会の会場のため埋め立てられる。 発掘調査の結果、肥前堀の北岸が60度に傾斜し2段の階段状だったことが 護岸のため平らな部分に太さ5cmほどの杭が約50cm間隔で打ち込まれてい
18	横矢掛かり	32	横矢掛かり		福岡城の堀の痕跡が道筋に残っている。 城郭の周りに張り巡らされた防衛機能で城築城する際曲がり角が出来てい 侵攻する敵に対し側面から弓矢や鉄砲による攻撃などで効率よく対応する
19	草香江浦の石柱	33	草香江浦の石柱		かつて堀がここまであったという証拠になる江浦とかかれた石柱が残る。 草香江浦という文字が推測できる柱の断面。
20	大濠公園	34	大濠公園		かつては草香江と呼ばれる大きな入江だった場所。 福岡城築城の際に大堀として利用され、堤防として機能していた。 博覧会をきっかけに大規模な埋め立てが行われ、現在のような土地利用が
21	黒門川	35	黒門川		現在道路の下には黒門川が流れていて、大半は暗渠になっている。 福岡城築城の際、埋立て大きな外堀を造った際に開削された人工の水路。 唐人町側の歩道には黒門川を思わせるような水路が流れる親水公園風。
		36	黒門橋		黒く塗られていたことから名前の由来になった。 黒門は唐津街道沿い黒門川にかかっている黒門橋の部分にある。
		37	築所跡		かつて川の流れを堰き止めて魚を生け捕る仕掛けをしていた場所。 黒門川通りが大きくカーブを描いている海側の黒門川が現れる部分にある 海から堀伝いに敵が入ってくるのを防ぐ工夫もあり川の形状は当時の面影
		38	杉土手		大濠に突き出た部分にまっすぐな木が描かれている。 この部分は馬廻組という馬に付き添って護衛にあたった人のお屋敷があっ 杉のようなまっすぐな木は一本もなく、松のような曲がった木がたくさん 敵の目印になる場所にまっすぐな木を描き、実際には曲がった木を植えた
22	黒門水導観音	39	黒門水導観音		かつては離れ小島だった船賃町の場所に建っている。 堀を浚渫していた時にでてきた霊仏を祀っている。
		40	船賃町		船賃町付近をふくむ唐人町に通じる橋がなく離れ小島のようになり船で行 その船がこの場所で船賃を支払って船に乗っていたのが由来。
23	永倉(永蔵)	41	永倉(永蔵)		現在の簀子小学校の隣、大手門商店街付近にあった。 かつての福岡城の下ノ御橋から北側に行った海岸線沿いで藩の米蔵として 永蔵から海岸線に向かって細い3 本の水路が伸びているのが古地図で分か 運送の水路を使用しており、船で運ばれてきていたため海岸線沿いに建て
		42	長浜海岸線沿い		長浜に残る曲がったような石垣が、かつての海岸線沿いだということが確
24	午砲場跡	43	午砲場跡		東北約60mの旧台場で須崎から移った市営の大砲が正午を知らせたとある 時報を知らせた大砲があった場所で大砲が仕舞われた小屋の痕跡が残る。 古地図にも午砲場の文字が、福岡市街圏には波奈砲台跡の位置に書いてあ
25	波戸(波奈)	44	波戸(波奈)		国際交流の玄関口となり外交船を受け、遣新羅使や遣唐使などの船を送る 寛文元年に荒津山の北側から東へ一直線に出っ張った波戸が完成。 宝暦5 年には石垣の築足しが行われるなど少しずつ改修がされる。 寛政12年には先端から東南方向に新しく波戸が建設されはじめる。 享和元年に鍵のように折れ曲がったような形になり、翌年には住吉宮が勧
26	旧台場の石垣	45	旧台場の石垣		現在の須崎公園と那の津通り沿いの歩道間にある。肩の高さまで大きな石 鎖国に備え海岸線の防衛のため石垣が残っている洲崎砲台に大砲を設置。 石垣が大正から昭和の時期の福岡県女子専門学校の絵葉書に写る。 かつてこの鍵型の石垣が海に面していたことがよく分かる。 現在の地形とは大きく異なりかつての地面の高さや洲崎周辺が海岸線沿い
		46	博物館大砲		実際に使われていた大砲は現在、百道浜にある福岡市博物館に所蔵してあ 最後に活躍していた4代目の大砲で、昭和6年まで活躍していた。
27	黒瀬神社	47	黒瀬神社		海岸線沿いに建っていた様子が絵葉書にある。

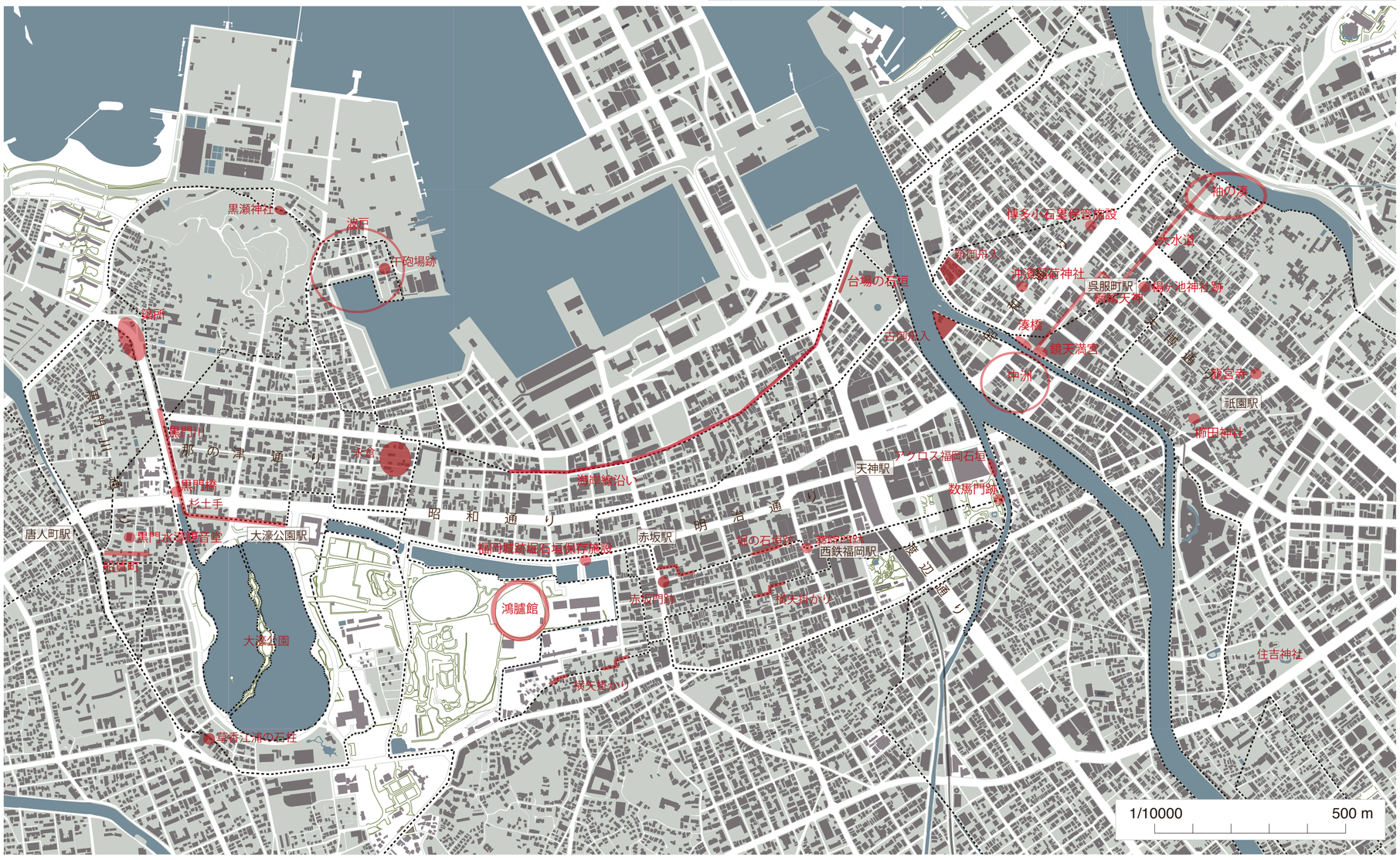


図２　まちあるきマップと都市形成サイト・都市形成スポット